

(案)

# 江東区協働事業提案制度 令和3年度実施事業報告書

江東区で実施している協働事業提案制度で令和元年度に2年事業として採択され、令和3年度に区と協働で実施した脱孤育て推進事業(2年目)について、実施団体から受けた事業報告および江東区区民協働推進会議委員からの意見を報告します。

## [目次]

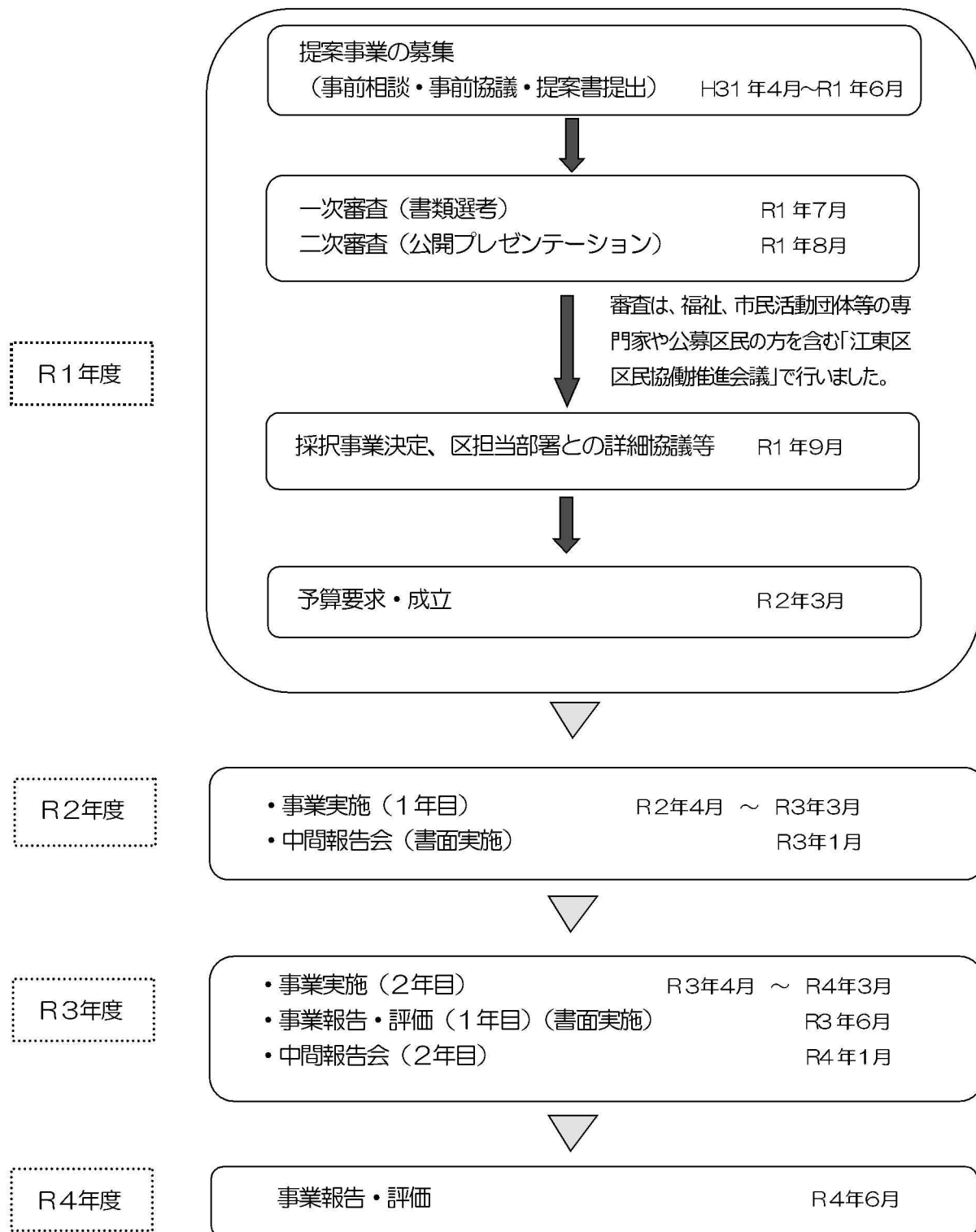
1 江東区協働事業提案制度概要	.....	1
2 江東区区民協働推進会議委員名簿	.....	2
3 協働事業結果報告書	.....	3
4 江東区区民協働推進会議委員意見書	.....	21

江東区地域振興部区民協働推進担当

# 1 江東区協働事業提案制度 概要

地域で活動する市民活動団体等の皆さんから、区と共に取り組むことで「こんな課題を解決できる」「よりよいまちをつくることができる」といったアイデアを、協働事業として募集します。

この制度によって選考され採択された事業は、提案団体と区が協議を重ね、協働により事業を実施します。本事業は2年実施事業として令和元年度に採択されました。



## 2 令和4年度 江東区区民協働推進会議委員名簿

◎…会長 ○…副会長

学識経験者	◎枝見 太郎	一般財団法人富士福祉事業団 理事長
	○大島 隆代	早稲田大学人間科学学術院 准教授
中間支援組織	新田 英理子	一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク 事務局長
区民	野村 充	公募委員
	木村 千瑛	公募委員
市民活動団体	中安 敬子	特定非営利活動法人マザーツリー自然学校 理事長
産業団体	石塚めぐみ	東京中小企業家同友会 江東支部 副支部長
公益活動団体	榎本 直樹	社会福祉法人 江東区社会福祉協議会 江東ボランティア・センター所長
	山口 遥	公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団 管理課長
区職員	堀田 誠	地域振興部長

令和4年 3月 31日

江 東 区 長 宛

団 体 名 一般社団法人 ママリングス

団 体 所 在 地

代表者職・氏名 落合香代子

## 協働事業結果報告書

令和元年度江東区協働事業提案制度採択事業の実施について、次のとおり報告します。

事業名称	脱孤育て推進事業
事業の実施期間	令和3年4月1日 ～ 令和4年3月31日
実施事業の概要 ※詳細については「具体的事業内容」に記入し、ここでは要約して欄内に収まるように記入してください。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 検討委員会の実施</li> <li>2. こうとう子育てポシエット掲載店舗取材（令和3年4月～） こうとう子育てポシエット掲載江東区施設書面取材</li> <li>3. 事業説明会とご案内送付</li> <li>4. 事業説明とご案内送付</li> <li>5. 第1回アンケート実施と回収</li> <li>6. プログラム実施・第2回アンケート実施と回収</li> <li>7. シンポジウム実施</li> <li>8. 第3回・第4回アンケート実施と回収</li> <li>9. こうとう子育てポシエット</li> </ol>

	<p>1. 検討委員会の実施  令和3年4月20日  令和3年5月26日  令和3年6月24日  令和3年8月21日  令和3年9月30日</p> <p>2. こうとう子育てポシエツト掲載店舗取材（令和3年4月～令和4年2月）  こうとう子育てポシエツト掲載江東区施設書面取材（令和3年4月～令和4年2月）  1)掲載エリア 亀戸/南砂/大島/富岡/小松橋/東陽/森下/白河/砂町/豊洲  2)取材掲載店舗数 104  3)取材掲載施設数 98  4)こうとう子育て応援団 5名  5)子育て困ったSOS! 28記事  6)子育て役立つ知識 13記事  （記事執筆：小児科医、理学療法士、保健師、栄養士）</p> <p>3. 事業説明会とご案内送付  令和3年5月21日 民生児童委員福祉部会  令和3年5月29日 主任児童委員部会  白河地区対策委員会</p> <p>4. 事業説明とご案内送付  小松橋地区対策委員会  富岡地区対策委員会</p> <p>5. 第1回アンケート実施と回収  アンケート回収数</p> <p>6. プログラム実施（別添あり）  11月6日（土）18時～20時30分  11月12日（金）18時～20時30分  11月17日（水）13時30分～16時  参加申込者数 128名  参加者数 111名  ・第2回アンケート実施と回収  参加者  アンケート回収数 103名</p> <p>7. 「脱孤育て」シンポジウム実施  参加者数</p> <p>8. 第3回アンケート実施と回収  第4回アンケート実施と回収  アンケート回収数 103名</p> <p>9. 3月28日（月）こうとう子育てポシエツトFesta開催  来場者数 約360名</p>
--	--

<p>事業の成果</p> <p>※この事業で取り組もうとした課題は、どこまで達成できましたか。</p>	<p>1. 虐待予防研修プログラム策定について 虐待予防をテーマとしたプログラムを区民検討委員、区職員が参画し、国立成育医療研究センター研究所に所属のキタ幸子氏の指導のもと、独自に作成した。3日間のプログラムに、111人の参加者が参加した。(別添1) 合計4回のアンケートを実施し、アンケートは国立成育医療研究センター研究所との合同研究として精査中である。</p> <p>2. 子育て応援MAP「こうとう子育てポシエット」作成について こうとう子育てポシエットの作成によって、子育てを応援している子連れウェルカムの店舗を掲載できた。令和3年6月より、地域イベントでWEBのPRを行った。令和4年3月28日(月)に、WEB名の冠地域イベントを開催し、掲載店舗にも出店者として参加いただいた。(別添2)</p>
<p>協働の効果</p> <p>※区と協働したことによって、どのような効果が得られましたか。</p>	<p>1. 虐待予防研修プログラム策定について 区と協働する事で、多数の市民の協力を得てプログラムの開発と効果検証を実施できた。また、団体だけでは実施できない、事業規模、意見交換の機会などをいただき、行政の立場からの率直なご意見を伺うことができた。策定したプログラムについては今後、江東区外も視野に入れて地域展開を図っていく。 また、事業実施意向に、地域の子育て支援団体や区民との協力連携の事例があった。</p> <p>2. 子育て応援MAP「こうとう子育てポシエット」作成について 区との協働ということで、区立保育園、幼稚園、児童館、みずべの協力を得ることができた。商店街等の協力を得ることができた。 また、区との協働成果により、経済課の協力を得て地域店舗と連携したイベントが実施できた。子ども家庭支援課の出店もあった。</p> <p>2016年より、ここまで協働事業で実践してきた弊会の事業が、令和3年度厚生労働省補助事業「市区町村要保護児童対策地域協議会等に関する調査研究」に好事例として取り入れていただいた。(別添3)</p>
<p>今後の活動展開</p> <p>※この事業で取り組んだ課題に対し、貴団体は今後どのような活動を展開していきますか。</p>	<p>1. 虐待予防研修プログラム策定について 本事業で連携を図ることができた区民委員の方々と、今後も地域の中での展開を模索していく。令和4年度は、事業内で実施した調査の効果検証結果を学会等で発表していく予定である。 また、令和4年7月に香川県にて、香川県小豆島消防署救急隊員の任意グループの主催で、地域子育て支援関係者に向けて虐待予防研修プログラムの紹介版を講演、ワークショップを開催する予定である。 江東区内においては、令和4年4月より、亀戸地域における地域コミュニティ拠点の運営に携わることとなったため、中長期的な視野で、本事業を何らか地域コミュニティ活性化事業の中で展開していくことを考えている。</p> <p>2. 子育て応援MAP「こうとう子育てポシエット」作成について 令和4年度以降、「こうとう子育てポシエット FESTA」「こうとう子育てポシエット WEB 運営」共に事業継続していく予定である。 令和4年度は7月に「こうとう子育てポシエット FESTA」を実施予定である。今後、WEBでは、地域商店の紹介、保育園幼稚園情報の充実に更に力を入れていく予定である。</p>

<p>自由意見</p> <p>※事業実施を通じて気づいたこと（新たな課題、実施体制、参加者の声等）を記入してください。</p>	<p>1. 江東区協働事業を通じて成長できたこと</p> <p>1) 事業を通じて、課題解決に向けた行政や地域の連携の仕組みを学ぶことができこと</p> <p>2) 事業を通じて、民間組織として事業で学んだことをどのように、組織の成長に活かすことができるかを考えることができたこと</p> <p>3) 持続可能な事業を実施する団体として、地域との連携を独自に図り事業継続の道を敷くことができたこと</p> <p>2. 協働事業における官民連携のあり方の課題</p> <p>1) 社会課題の解決には、福祉的な視点が重要であることの担当者教育</p> <p>2) 社会課題の解決を図る担当部門と担当者の育成</p> <p>3) 社会起業/社会企業の理解と雇用創出の仕組みを生み出す視点</p> <p>①民間事業のバックアップは、雇用創出につながる、②働く恩恵、サポートによる恩恵、相互に「共生社会」に必要な助け合う関係が地域の中に生まれること ③結果、税収、地域共生の醸成、地域の福祉を担う民間や次世代区民の掘り起こし、区民の生きがい、暮らしやすい街づくり、地域の人と人の顔が見える関係による安心、などにつながる。</p> <p>4) 余暇活動としてのボランティア参加の仕組みの整理</p> <p>5) 事業で得た財産を区政に生かす仕組みの整理</p>
---	--

※ 事業の成果物（冊子等）、参加者アンケートの結果、写真など、提出できるものがある場合は添付してください。なお、ご提出いただいたものは返却できません。

2021年12月吉日

江東区区民協働提案事業「脱孤育て推進事業」 児童虐待予防研修プログラム報告書  
報告書作成：一般社団法人ママリングス

## 1. 実施日

2021年11月6日(土) 18時～20時30分  
11月12日(金) 18時～20時30分  
11月17日(水) 13時30分～16時

## 2. 参加者数

参加申込者数 128名  
参加者数 111名

## 3. 内容

## ● 第1日目 講義

- 1) 「江東区における児童虐待の現状」  
江東区こども未来部こども家庭支援課養育支援担当係長 藤原 紀子
- 2) 「江東児童相談所から伝えたいこと 一子どもを虐待から守るために」  
江東児童相談所 所長 大浦 俊哉
- 3) 「児童虐待概論 チャイルドファーストの視点と虐待予防」  
松戸総合医療センター小児科 小児科医 小橋 孝介
- 4) 「虐待予防において理解しておきたい 児童虐待各論 ー小児科チームの視点からー」  
賛育会病院 小児救急看護認定看護師 塚松 このみ
- 5) 「虐待予防において理解しておきたい 児童虐待各論 ー小児歯科専門医の視点からー」  
東京歯科大学小児歯科学講座 辻野 啓一郎
- 6) 「現代の親と子どもを支えるために 私たちができること」  
江東児童相談所 課長代理(心理指導担当) 大野 和行

## ● 第2日目 ロールプレイ

ファシリテーター

1回目 一般社団法人 ママリングス 落合 香代子

2回目 一般社団法人 ポジティブ・ディシプリン コミュニティ 池田 詩子

(内容)

- 1) 観察者になって観察する
- 2) 子・保護者・おせっかいさん それぞれの役になって「気持ち」を体感する



#### 4. プログラムの様子

##### ● 1日目



##### ● 2日目



#### 5. アンケート結果（1部）

アンケートでは、たくさんのお声をいただき、ありがとうございました。質問も含め、年度内に全てのお寄せいただきましたご意見を共有させていただきます。今回は、いただいたご意見の一部をご紹介します。

（アンケートより）

・多くの方が参加されていてとても驚きました。医学的な見地からの報告や症例などは示唆に富んでおり、今後もしっかり心に留めておきたいと思いました。保護者の方のお話を聞いて少しでもサポートできればと改めて思いました。歯科の先生の事例は参考になりました。子どものおやつへの偏食も影響があることもあるのかなと思いました。チョコレートなど食べない子でも服装など心配な傾向があれば、口腔

内も確認した方がいいのか？と考えたりした。(好みもあるので気をつけたいですが) 講義の構成もとても良かったと思います、スムーズに理解できました。(11月6日)

・このプログラムを受講する前は2時間半集中できるか不安でしたが、講師の方々がとても丁寧にわかりやすく興味深いお話をしてくださったので、しっかりと学ぶことができました。虐待が引き起こされる原因、それに対してどのように支援していくべきか知ることができました。一人の力ではなく周りとの連携することが大事だとつくづく感じました。次回のプログラムも楽しみにしております。よろしくお願いいたします。(11月6日)

・この講義は特に小学校、PTA関係者が参加していないと思いますが、案内をして参加(案内)させるべきと考えます。児童福祉法に文字通り、児童、保護者という言葉が使われていますが、学校の先生、PTAの人々(保護者)は該当するのではと思う。(11月6日)

・明日からできることは？と問われた時、自分にできることが実際にあるのかと自信がなかったが・・・つなぐことはできるかもしれない！子育て中のお母さんなどに挨拶をすることはできる！ひとりである子どもに声をかけることはできるかもしれない、そんなことから何かあたたかいきずなができていったら良いと思います。(11月12日)

・日頃、子ども会にて行事等で子どもと接するのみで、親との関わりがありません。今回の講習で進んで関わっていきたいと思いました。(11月12日)

・委員という名前はあってもまだまだ関わりが少ないと思いました。もっと積極的に周りを見て、かしまらずに声かけられる人になりたいと思いました。職場(スーパー)では、店員としてちょこ〜っとお客さんに声かけしているのでそれをもっと自然にどんどんやっというと思える2回目のプログラムだったなと思います。やる気を奮い立てられました。(11月12日)

・先日町の定例会があったので、地域のおじさん、おばさん、役員の方々へ、この研修プログラムを伝え、近所の新しい家族に目を配るよう話をしました。11月1日の区報に児童虐待予防推進月間とあったのでタイムリーでした。良かったです。(11月17日)

※ その他、研究調査アンケートの方にもご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。

「もっと踏み込んだ虐待対応について知りたかった」、「実際のケースについて知りたかった」、というお声もいくつかいただきました。

今回は、虐待に至る前に市民ができる「虐待予防」、地域で起こっている虐待に「きづく」「つなぐ(を考える)」というところに視点を置いたプログラム構成としました。

「きづく」「つなぐ」「見守る」そして、まちの目利きの5つの定義を大切にしながら、今後も皆様からのご意見をいただき、より良いプログラムを作って参りたいと思います。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。(一般社団法人ママリングス 落合)

## 6. 媒体掲載情報

### 1) NHK 首都圏ネットワーク放映

「地域の目で虐待防止」

- 2) AERA 12月6日発売 12月12日号掲載  
「虐待リテラシーで虐待しない連鎖 周りの大人が連鎖切る」
  - 3) AERA.dot 12月11日配信  
「目の前で見た子どもへの暴力に動けず…大人たちの後悔がうんだ「虐待リテラシー」勉強会
  - 4) AERA.dot 12月12日配信  
救急車に「虐待の早期発見チェックシート」を配備 医師とは違う視点で得た情報を共有  
※ 事業にご協力くださった 香川県小豆島の救急隊員 西本 義則さん、研究担当者のキタ幸子先生  
のコメントが掲載されています。
7. お知らせ「脱孤育て推進事業」シンポジウム 放映について  
2022年2月1日（火）から2月28日（月）に東京ベイネットワーク（Ch10）にて午後8時から  
毎日、2021年11月28日（日）に開催した「脱孤育て推進事業」脱孤育てシンポジウム“」を2時  
間放映いたします。

以上

市民リーダーを対象にしたこども虐待の研修プログラムの開発と知識・認識・行動への効果  
検証：前後比較試験

キタ幸子<sup>1,2,3</sup>、落合香代子<sup>4</sup>、齋藤庸一<sup>5</sup>、秋山三郎<sup>6</sup>、阿部光城<sup>5</sup>、田下恵一<sup>7</sup>、田中弘子<sup>8</sup>、  
松本富美子<sup>9</sup>、林志保子<sup>10</sup>、小橋孝介<sup>11</sup>、辻野啓一郎<sup>12</sup>、内山健太郎<sup>13</sup>、塚松このみ<sup>14</sup>、池  
田詩子<sup>15</sup>、池田真理<sup>1,2</sup>、鈴木秀洋<sup>16</sup>

- 1) 東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学専攻 家族看護学分野
- 2) 東京大学大学院医学系研究科附属グローバルナーシングリサーチセンター  
ヘルスクオリティアウトカムリサーチ分野
- 3) 国立成育医療研究センター研究所政策科学研究部
- 4) 一般社団法人ママリングス
- 5) 江東区少年団体連絡協議会/江東区少年団体連絡協議会西部連合会
- 6) NPO 法人 こうとう親子センター/ホームスタート・こうとう代表
- 7) 江東区青少年委員
- 8) 江東区主任児童委員/部会長
- 9) 開業助産師
- 10) 江東区元主任児童委員
- 11) 鴨川市立国保病院
- 12) 東京歯科大学小児歯科学講座
- 13) ジャパングリーンクリニック
- 14) 社会福祉法人 賛育会 賛育会病院
- 15) 一般社団法人 ポジティブ・ディシプリン コミュニティ
- 16) 日本大学危機管理学部

【目的】市民リーダー（民生児童委員など地域で活動する市民）向けの子ども虐待の研修プログラムを開発し、その地域の子どもの見守りと虐待の発見・対応に関する認識・知識・行動等への効果を明らかにする。【方法】2020年4月～2021年8月に都内A地区において、行政職員・民間団体・研究者・医療者・市民で構成された多職種チームを結成し、知識提供型の講義（2時間半）と参加型のロールプレイやグループディスカッション（3時間半）を組み合わせた市民リーダー向けの研修プログラムを開発した。2021年9月～2022年3月にA地区の市民リーダー111名を対象にした研修プログラムの効果を検証する前後比較試験を実施した。介入前、介入1か月後・3か月後に、属性、地域の子どもの見守りと虐待の発見・対応に関する認識・知識・行動を問うオリジナル項目、コミュニティ意識尺度（石盛ら、2013）を含む無記名自記式質問紙を郵送し、回答を依頼した。分析は各時点の認識・知識・行動、コミュニティ意識の得点を対応のあるt検定を用いて比較した。本研究は国立成育医療研究センター倫理審査委員会の承認を得て実施した。【結果】介入前、介入1か月・3か月後の回答者数は、111名、101名、94名であった。介入前に比べて、介入1か月・3か月後にお

ける認識、知識、コミュニティ意識尺度の合計得点・下位尺度得点は有意に上昇した ( $p < .05$ )。行動に関しては、合計得点では有意な差はなかったものの、介入前に比べて、介入 1 か月後の「学ぶ (虐待や子育てについて自ら調べたなど)」「見守る (気になる子どもに声をかけたなど)」の下位尺度の得点が有意に上昇した ( $p < .05$ )。【結論】本研究は、多職種チームで初の一般市民向けの子ども虐待の研修プログラムを開発し、その認識・知識・コミュニティ意識の全体的な向上及び行動の部分的・一時的な向上への効果を明らかにした。(798 字/800 字)

## イベント報告書

2022年 4月 8日

報告	一般社団法人ママリングス	担当者	櫻田智子
----	--------------	-----	------

## (1)開催概要

名称	こうとう子育てポシエットFesta
日程	2022年3月28日(月)10:00-15:00
主催	アリオ北砂 一般社団法人ママリングス
場所	アリオ北砂 1階リーフコート
概要	親子が安心して過ごせる居場所を提案
目的	・共働き世帯が多く、9割以上が地縁のない中、地域での子育てスタート期の不安や孤独感を軽減する。 ・コロナ禍で公共の支援が受けにくい状況の中、子育て親子同士の新たな出会いの場を提供し、支援情報を届ける機会にする。
出店者	江東区こども家庭支援課、キンコーズ・ジャパン株式会社、株式会社相馬、尾張屋株式会社、共感堂合同会社irodori、ことみせ事務局、かめっこ ほーむず、イブラ・ワ・ハイト、カーペンターズミス、The English Treehouse、一般社団法人ママリングス(産前産後ケアサポート リラコム)
協賛	SARAYA株式会社 (物品協賛 LLエナジーアクティベート クリーム(5,500円相当))

## (2)報告事項

内 容
<p>■出店内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江東区こども家庭支援課</li> <li>パネル展示(江東区児童館の紹介)</li> <li>・キンコーズ・ジャパン株式会社</li> <li>オリジナルカレンダー作成ワークショップ</li> <li>・株式会社相馬</li> <li>ホントのねんど、かざれるミニシキシ、デカフェコーヒー販売</li> <li>・尾張屋株式会社</li> <li>不動産相談会</li> <li>・合同会社共感堂 irodori</li> <li>日用品、食品販売</li> <li>・ことみせ事務局</li> <li>江東区情報アンケート 参加者抽選会</li> <li>・かめっこ ほーむず</li> <li>かめっこ縁日、活動広報、江東区情報提供</li> <li>・イブラ・ワ・ハイト</li> <li>シリアの女性支援 アクセサリー、小物販売</li> <li>・カーペンターズミス</li> <li>本革プレスレット作り</li> <li>・The English Treehouse</li> <li>英語の歌、絵本読み聞かせ(10:30、13:30)</li> <li>・一般社団法人ママリングス(産前産後ケアサポート リラコム)</li> <li>ママの骨盤ケア体験(11:00、11:30)</li> </ul>
<p>■全体来場数・売上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者数</li> <li>約180組 360名(目標300名) ※ 受付協賛品配布数からカウント (主に0.1,2歳を子育て中の親子)</li> <li>・ブース全体売上</li> <li>5ブース ワークショップ、各種販売物 合計 58,408円</li> </ul>

■各ブース別来場者・売上

親子体験ブース

- ・英語の歌・読み聞かせ(The English Treehouse)
- 午前の部:10組 午後の部:5組
- ・ママの骨盤ケア体験(産前産後ケアサポートリラコム)
- 1回目:7組 2回目:2組

ワークショップブース

- ・本革プレスレット作り(カーペンタースミス)
- 体験者32名 売上16,000円
- ・オリジナルカレンダー作り(キンコーズ・ジャパン株式会社)
- 体験者49名 売上5,000円(1名2枚作成者含)

販売ブース

- ・紙のこと(株式会社相馬)
- ブース来場者 50名 売上 ホントの紙ねんど 9,900円
- ・irodori(合同会社共感堂)
- ブース来場者 30名 売上 食品日用品など 10,908円
- ・イブラ・ワ・ハイ
- ブース来場者 30名 売上 アクセサリーなど 16,600円

来場者・出店者の反応

■来場者の反応

- ・お出かけのきっかけになった。
- ・久しぶりのイベントで楽しかった。
- ・春休みのいい思い出になった。
- ・親子でのイベント参加が初めてでいい刺激になった。
- ・次回も是非参加したい。イベントがあったら是非知らせしてほしい。
- ・もう少し子どもが体験できるブースが多い方がよかった。

■出店者の反応

来場者について

- ・短い時間だったが、久しぶりに赤ちゃんや若い世代のお母さん方との交流が出来て楽しかった。
- ・可愛い子どもが周りにたくさんいる環境が久しぶりで嬉しかった。
- ・自分の子育てや自分の子どもの子育てと重ね合わせながら楽しめた。
- ・来場者と子育ての話をしながらか楽しく過ごせた。子どもと他ブースの内容を楽しめた。

店舗、運営について

- ・動画を流したり、商品を使った作品の展示など工夫を行い、多くの人に立ち止まっていただけた。
- ・リーフコートは色んな方向からの動線があり、多くのお客様に見ていただけた。
- ・もう少し店舗の情報をアピールできるものをブースにおけば良かった。
- ・想像以上に来場者が多く、イベントを作った皆さんの努力を感じた。
- ・ブースに「本日のみ」「15:00まで」とわかりやすい表示があった方がよかった。

イベントエリアの様子と来場者の推移

総来場者数360名(目標300名)

事前広報とアリオのハッピーデーの影響により、オープンすぐからイベントエリアに多くの方が来場し、10:30から11:00頃にピークを迎え、全体で50組程が楽しんでた。特に、親に関心の高い英語の読み聞かせや無料で体験できることみせ、かめっこほーむずブースなどが賑わっていた。また幼児の親子連れにはオリジナルカレンダー作りや本革プレスレットなどの体験ブースも人気で午前中は列が出来ていた。12時頃にはランチタイムということもあり一時は誰もいない時間もあつたが、午後になってからは客足も落ち着き全体で5から10組程度を推移。午後の時間は当初のターゲットである乳幼児親子層の他、お買い物ついで、習い事ついでで入館された年配の方や小学生連れ親子が多く見受けられた。空いていたのでワークショップをじっくり楽しむ方やブースの説明を熱心に聞いて行かれる方が多く、地域とのコミュニケーションという意味では多くの方に来店団体を知っていただくきっかけとなった。

## 所 感

ターゲット層の0,1,2歳の子育て世代は妊娠出産の頃からコロナ禍という状況で、不安が大きい中子育てをスタートしているが、公的な支援も一時ストップし、支援を受けるにも予約や手続きが必要な状況である。今回のイベントで区内の子育て支援情報を得られた、初めて子育てイベントに参加してこどもの成長を感じたなどポジティブなご意見が多かった。積極的に参加しようと質問をいただく方が多く、同年代の親子に会う機会や子育て支援イベントで目的とした、「誰かに会える身近に集える居場所」を切実に望んでいることが伺えた。また来場者がイベントへの関心は高いが、期待値が高すぎない理由として、開催を区内のショッピングモールショッピングにしたことでショッピングや食事など同じ場所で他の行動を選択できる余地があること、予約や応募が不要だったことが挙げられる。そのためイベント来場者の満足度が高かったと予想される。

## イベント写真







## XI. 東京都江東区

【自治体の概要】 類型:中核市以上(人口20万人以上)

人口 : 525,582人(令和4年2月1日時点)

面積 : 43.01 km<sup>2</sup>

児童人口 : 78,135人(令和4年2月1日時点)

### 1. 子ども家庭総合支援拠点/要保護児童対策地域協議会に関する基本情報

#### (1) 子ども家庭総合支援拠点と民間連携

- 区役所で児童虐待を担当しているこども家庭支援課養育支援係と、区内の子ども家庭支援センター(6カ所)のうちこどもの虐待ホットラインを設置している1カ所(南砂子ども家庭支援センター)を合わせて、子ども家庭総合支援拠点と位置付けている。
- 南砂子ども家庭支援センターは、設立当初から民間に管理運営を委託している(指定管理者として委託)。同センターでは、子育てひろば、一時預かり、利用者支援の事業を行う。
- 身近な相談窓口として、南砂子ども家庭支援センターにこどもの虐待ホットラインを設け、民間委託した。
- 区は、児童虐待対応全般についての管理・調整業務を担いつつ、区への通告に対応するなど官民双方で対応している。



左：子ども家庭総合支援拠点、右：子育てひろば

(資料：江東区)

## (2) 要保護児童対策地域協議会の民間構成機関

- 要対協業務は、区のこども家庭支援課が直営しており、民間への業務委託はなし。
- 民間の構成員として、教育機関（保育所、幼稚園、小中学校等）、医療機関、社会福祉法人、NPO、民生・児童委員等が参加している。
- 民間団体は、代表者会議、実務者会議に参加。関わるケースがある場合、個別ケース検討会議にも参加。
- 頻繁にあるわけではないが、個別ケース会議においては、要対協構成員以外の民間団体（私立学校等）が一時的に参加するケースもある。

## 2. 支援拠点／要対協と民間(=ママリングス)との連携の取組

### 【民間団体の概要】一般社団法人ママリングス

子ども虐待予防啓発を実践する子育て支援組織。江東区協働事業提案制度において「こうとう子育てメッセ」を企画立案し、事業から生まれた「こうとう子育てメッセ実行委員会」と江東区と共に「脱孤育て<sup>®</sup>」をスローガンに、地域と子育て当事者を巻き込んだ「子ども虐待予防」啓発を実施している。また、「子育て応援 MAP」や「子ども虐待予防研修プログラム」等を区内で展開している。

### (1) 連携の背景・目的

- 区では、非営利活動を行っている団体の柔軟で先駆的な発想や専門性を効果的に公共サービスに取り入れ、地域課題の解決に取り組むことを目的に、平成 22 年度から毎年「江東区協働事業提案制度」を実施している。
- 協働事業には提案型公募事業の性格を有しており、「自由提案」枠（団体の専門性を活かして自由な提案をしてもらう）と「課題提案」枠（区から社会課題を提示し、団体から解決手法を提案してもらう）により、民間団体からの提案を募集し、毎年度数事業を採択している。
- 協働事業期間（原則 1 年。2 年提案も可能程度）に予算をつけて、事業を実施するとともに、事業終了後には民間団体による自立的運営や、区による新規事業化につなげることを目的としている。
- ママリングスからは、平成 27 年度に「こうとう子育てメッセ」、令和元年度に「脱孤育て<sup>®</sup>プロジェクト」の提案を受け、採択している。

### (2) 民間の役割・活動内容・体制

- 東日本大震災以降、虐待予防、虐待防止の啓発に向け、地域のつながりを目的としたイベントを開催してきたママリングス。活動が拡大するにつれ、「本当に困難な人を助けるためには、民間単独ではなく、公的な継続事業にしていかなければならない」との思

いで、こうとう子育てメッセ、脱孤育て®プロジェクトの2事業を区の協働事業に提案。

- 江東区には地域貢献意識の高い市民が多く、2事業はこれら市民の活力を発揮してもらおう場としても位置付けられている。
- 2事業は区の支援や区民等の協力を得つつ、ママリングスの主導の下、実施されている。これらの活動は、公共が地域の子どもや親を守っていくというメッセージを送ること、地域全体でのサポートが見える化すること、子育てにかかわる人同士のつながりを作ること等を目的に進められている。

事業	概要
こうとう子育てメッセ	行政、民間団体、子育て当事者が協働で実施する、こども虐待予防防止啓発事業。妊婦やその家族、未就学児を子育て中の家庭を対象に、子育て支援情報発信、子育て中の地域のつながりづくりを目的とする子育て情報発信イベント。
脱孤育て®プロジェクト	地域で子どもや親子に関わる市民向けに、子育て応援MAP（WEB こうとう子育てポシット）及び児童虐待予防研修プログラムを提供。「知る」こと、「共感」することで虐待予防につなげる。本プログラムの効果検証を国立成育医療研究センター研究所と実施。



左：こうとう子育てメッセ、右：児童虐待予防プログラム  
（資料：ママリングス）

### (3) 連携の効果

- 江東区協働事業提案制度が児童福祉分野にもたらした効果として、提案制度の導入により、区と民間団体との協働関係が構築され、連携活動が進んでいることが挙げられる。
- 本事業から新事業が次々に創出されるという状況にまでは至っていないが、協働事業後に民間事業として自立するケース、区で事業化をするケース等がみられている。
- ママリングスの「脱孤育て®プロジェクト」においては、地域における子ども安全安心ネットワークを構築している最中である。従来、区のこども家庭支援課では関係性が薄かった青少年団体等を虐待予防研修対象に取り込み、ネットワーク拡大につなげている点等は、民間団体の既成概念にとらわれない取組の成果と言える。
- 区の関与により、虐待予防活動への認知度が高まったこと、区民ボランティアや研究者等との連携が進んだこと等、民間のママリングス側に及ぼした効果も大きい。

### (4) 連携の課題、工夫

- 江東区協働事業提案制度のような提案型の協働事業においては、民間がやりたいことと行政がやってもらいたいこと、プロジェクトの進め方に関する官民の考え方の違い等のすり合わせが必須であり、綿密なコミュニケーションが重要となる。
- 協働事業終了後、区から支出がなくなった際に、民間団体だけで事業を継続できるところと、そうでないところがあり、団体の資金調達能力等が必要となる。また、区がどの程度事業化していくかについて、区としての方針設定も課題とされている。
- 区の支援終了後も、ママリングスでは子育てメッセを Web 主体のものにする等、民間単独による継続努力をしているが、公共の関与の必要性を感じている。
- 官民が社会課題解決（虐待予防・防止）に向けて連携する際には、官の論理、民の論理にとらわれず、何を最重視しなければならないか、誰のための施策か等について意識を共有する必要がある。

## 3. 支援拠点／要対協と民間(=ママリングス等)との情報共有

### (1) 情報共有の現状

- ママリングス等の協働事業等の委託事業においては、契約書、仕様書の中で守秘義務規定と業務範囲を明記し、それに沿った情報共有を行っている。
- 協働事業とは別に、要対協の構成員とは要対協の守秘義務規定の下で情報共有を行っている。一方、要対協構成員以外で一時的に個別ケース検討会議等に参加する団体には、センシティブな個人情報共有していない。

江東区協働事業提案制度 令和3年度実施事業  
江東区区民協働推進会議委員意見書

事業名	脱孤育て推進事業（2年事業・2年目）		
団体名	一般社団法人ママリングス		
担当課名	こども家庭支援課	関係課	青少年課、福祉課
事業費 （予算額）	1,521,621円 （1,511,200円）	行政	1,055,400円
		団体	466,221円

◆ 江東区区民協働推進会議 委員意見 ◆

- ・コロナ禍で事業展開しづらかった面もあったと推測するが、虐待予防プログラムの策定ができたことは評価できる。
- ・長期視点もしっかりと視野に入れ、エビデンスベースで活動がなされており、大変良い事業であったと評価した。
- ・今回124名もの区民が参加し、協力を得たことがこのプログラムの大きな第一歩だと感じた。行政と協働することにより、多くの方々に周知することが可能となり、問題意識を持つ市民が増えて多機関連携が広がることを願う。
- ・このプログラムが本当に効果的であるかを中期長期にわたってみていく必要があり、「プログラムは受けて終わり」ではなく、今回受講した人たちが今後どのようなアクションをとっていくのか、また何が生まれていくのか、興味深いところである。
- ・この研修プログラムを受けた方が、今後どう活躍するのか、その方向性についてもう少し明確になると、さらに事業性も加速するのではないかと感じた。
- ・提案団体が有する人脈や企画力、多くの人材をプロジェクトに注力させるコーディネート力などの総合力と、区が有する広報力、調整力等の強みとが合わさった成果であり、協働の手法でなければ成し遂げることが難しかったと思われる。そのため協働の成果については高く評価できる。
- ・当該プログラムの効果については、団体からは、「受講者のアンケート結果から行動変容へ効果はあった」との説明があったが、詳細は分析中とのことであったことから、本事業の目標に対しての評価が困難となってしまったこと、また、今後の本事業の方向性について、区にとって協働事業実施年度内で判断しがたいものとなってしまった点は残念であった。
- ・提案団体、担当課双方が多大な時間と労力をかけ、非常にオリジナルで効果的な成果物ができたにも関わらず、その成果が継続することなく協働事業提案制度の事業期間である2年間だけのものとなってしまったことは非常に残念である。

◆ 江東区区民協働推進会議 総合意見 ◆

今回の事業はコロナ禍による影響を受け計画通りに進めることは難しかったが、子育てにとって大きな課題となっている孤立化による虐待を未然に防止するための取り組みとしての可能性を見出すことができるものとなった。事業主体となったママリングスは、今までの子育て支援に対する活動経験から専門家などとのネットワークを活用し課題解決に向けた問題点を整理した。

虐待防止には地域が一体化して子育てをサポートすることが重要であり、その担い手となる多くの区民の参加を得て意識啓発につなげることができた。行政と民間団体では事業を進めるプロセスにおいてそのスピードや手法に違いがあり、事業の成果をすぐに行政施策へ反映することは難しいが、今回の取り組みは江東区がこどもを産み育てやすい街を目指す上で大変有効な経験となった。行政と民間団体が協働することによりお互いの特徴を活かしたアプローチで課題解決に向けた取り組みを行うことによってそれぞれが成果を生み出し、今後の協力関係をどのように創造していくかが大切であると考える。

今回の成果の一つである虐待予防プログラムが、子育てを支援する地域力を強めるための一般区民の参画を促すものとなることを期待したい。